

### 63. < 温室効果ガスっていくら ??? >

地球温暖化問題がクローズアップされ温室効果ガス削減の取組みが活発化していますが、実際に下水道の現場では、まだそれほど切迫した問題と受取っている方は少ないのではないのでしょうか？

しかし、最近の新聞報道を見ていると、原子力発電所の地震被害などの影響もあり、日本の温暖化ガス抑制の計画が大幅に見直しを迫られるなど、かなり大変な状況になってきています。

以下のような記事をご覧になった方も少なくないと思います。

「温暖化ガス 追加削減 2000 万トン超 必要」政府 10 年度試算目標届かず 排出権 660 億円分

政府は 7 日、2010 年度の温室効果ガスの排出量が 1990 年と比べて少なくとも 0.9% 増えるとの見通しをまとめた。排出権購入や森林整備など現在固まっている抑制策を実施しても、京都議定書で日本が公約する 90 年比 6% 削減は難しい情勢。... ..環境税の導入で追加削減につなげる構想が再浮上する可能性もある。(日本経済新聞 2007 年 8 月 8 日朝刊)

なんと、660 億円ものコストを温室効果ガスを排出した代償として支払わなければなりません。この記事から想定すると CO<sub>2</sub> 2000 万トンで 660 億円ですから CO<sub>2</sub> 1 トン当たり約 3300 円支払うことになります。

排出権取引が盛んな EU でも、現在 1 トン当たり 21 ユーロ (約 3000 円) で取引されていますので 1 トン 3000 円と考えてよさそうです。(8 月の為替レートで計算)

一般家庭の CO<sub>2</sub> 排出量は年間 4.8 トンとの試算がありますので、発生 CO<sub>2</sub> 全量をコストに置き換えると、14400 円となります。環境税の導入などで、今後どれくらい個人負担が発生するか分かりませんが、結構、家計にも響きそうな気がします。

下水道事業での省エネ化、温室効果ガス削減の取組みを、いっそう加速していかないと、下水道維持管理コストにも大きく影響しそうです。

< 山本 博英 >

J S 技術開発情報メール No.70 号(2007/9/6)に掲載